

協働通信

4月に都留市地域おこし協力隊員として委嘱された川崎倫さんかわさきみちに、これまでの経歴や今後の抱負についてお話を伺いました。

地域おこし協力隊員になる前は、なにをしていましたか？

私は高知県高知市で生まれ育ちました。小さいころから自然が大好きで、小学生の頃、高知県西部の佐賀町で行われている自然体験の学校に通っていたり、よく愛犬と共に山で走り回っていたりしました。高校からは、硬式テニスを始め、学校とテニスコートと家を往復する毎日でした。インターハイ、国体に出場し、「努力は人を裏切らない」ということを身にしみて学びました。

私が初めて都留市に来たのは5年前、都留文科大学生として入学したときでした。大学でも硬式テニス部で活動に励みました。そんな中、大学3年の夏、八王

▽都留市まちづくり
市民活動支援
センター
都留市上谷2-1-15
都留市役所
新町別館1階
▽開館
月～金(祝日除)
8:30～17:30
▽問い合わせ先
mail: shien@city.
tsuru.yamanashi.jp
☎(46)5236
FAX(46)5237

子市に移住し、インド・バンゲラデシュに教育支援を行うNPO法人のインターシップに参加しました。インターシップでは、NPO・NGOの日本最大級のイベント「グローバル・フェスタ」の出展準備と当日の運営をさせていただきました。活動を通して、世界の子どもたちを取り巻く教育環境、子どもにとっての教育の重要性について考え、意見交換



■4月より都留市地域おこし協力隊員として委嘱された川崎倫さん

しあう貴重な経験をさせていただきました。

私はこの経験から、世代を超えて受け継がれるものの一つに「教育」があると実感しました。そして、教育の問題も「地域」や「家庭」から考え、解決していく必要性を感じました。

地域おこし協力隊員として、都留市にどのよう携わっていききたいですか？

これから都留市の地域おこしを通してたくさんの方々と関わりたいと思います。私が思う都留市の素敵なところは、自然が単に人々の近くにあるのではなく、生活の一部として存在している点です。自然は子どもたち、大人、



■グローバルフェスタにて

地域にとって、「共通のもの」として「つながり」をつくる存在であると思います。今後私が目指していることは、未来を担う子どもたちの笑顔があふれる社会を創ることです。その上で都留市の自然を子どもたちの教育の場として活用していきたい環境づくりに取り組んでいきたいと思っています。

また、子どもたちを取り巻く家庭、学校、そして地域が自然によってつながり、地域や自然の中で子どもたちを支えていける活動をしていきたいです。

◎平成23年度、「協働のまちづくり」コーディネーターとして池谷迪久さんが委嘱されました。都留市まちづくり市民活動支援センターなどで協働のまちづくりへの支援をおこないます。



■協働のまちづくりコーディネーター 池谷迪久さん